



# Pure 純 No.150 Pacific パ Jul.2010

純パの会会報『純パ』第150号

2010年7月31日発行

発行：純パの会 〒193-0816 東京都八王子市大楽寺町155-10 吉田方  
TEL & FAX.042-652-1066

## 会報「純パ」150号をむかえて

影山 一義

このたび、会報「純パ」は150号目の会報を送りだすことが出来ました。純パの会会員のみならず、毎回タイトルなスケジュールにもかかわらず印刷・製本までミスなく完璧に作り上げていただいている印刷クリエイト様、会報発送作業の会場をご提供いただいた大倉徹也様、東山道之様、クロネコメール便にて会報をお届けいただいているヤマト運輸様、その他これまでに会報に関わってきたすべての方々に御礼を申し上げます。

ありがとうございます。

そしてこれからもよろしく願っています。

前号の編集後記でも書きましたが、本来なら150号を記念して盛大にしてくださいなのですが、諸々の事情もあり特別なことはしません。しかし一方で年6回、コンスタントに会報を出し続けることができるのも、また良きことかなとも思うのです。

思えば、現在の会報のスタイルに誌面を刷新したのは会報85号（九九九年七月発行）から。当時の会報編集人は現代表の吉田由季子さんでした。試行錯誤を繰り返して、100号記念号を含め、現在に至る会報誌面のデザインを考え出したものでした。

ただし、私自身はそれ以前にも会報づくりに携わっていた時期がありましたので、通算すれば足かけ15年近く会報に携わっています。この作業に関わっているからこそ、純パの会に在籍し続けていると言っても過言ではないかも知れません。大げさかな？

昔も今も会報の誌面を作る作業は、それなりに手間のかかる作業なのですが、そんな作業の支えになったのは、会員のみならず送られてくる投稿の山でした。常連の方、初めて投稿を寄せていただいた方、年配の方、若い方……、どの文面にもひいきのチームや

選手、そしてパ・リーグに対する愛情、熱意がひしひしと伝わってきます。その時々で投稿数の多少はありますが、そんな熱い投稿があるからこそ、この会報が成り立っていくのだと、つくづく意識させられます。

「会報「純パ」は外へ開かれた扉」。会報100号記念号の第2球（第2章の意）に付けられたタイトルです。会報がファン集団の仲間うちだけの親睦誌であることを超え、パ・リーグを愛する者たちの広報誌として、もともと外に開かれていくべきという意味が込められているタイトルですが、これまでにそれは果たして実現できているのか。今でも会報を作り続ける上での大きな課題のひとつです。会員からの投稿も大事なものは当然ですが、その会員からの投稿を増やすために、また会報を通じて純パの会をアピールするために、会報にかけるアイデア、企画を考える作業は、会報担当者だけでなく代表や事務局なども含めたチームでの課題に、これからもなり続けることでしょう。

現在、会報は年6回、およそ2カ月に1回の発行のため、最新の出来事やニュースに対する対応には限界があります。反面、じっくりと一つの出来事に対して冷静に見つめ直すにはいい間隔だとも思えます。その記録を表現するのに適しているのが、この会報ではないかと思えます。会報一部一部の積み重ねが日本プロ野球史における、純パの会の、そしてパ・リーグファンの歴史の一場面を担えればと、強く思っています。

仮に、今後も現在の発行スケジュールが維持できた場合、今から8年後、二〇一八年十一月発行の号が通算200号となる予定ですが、その頃の私自身と会報と純パの会を取りまく状況がどうなっているのか、壮大な道のりの前に立っているようです。目指せるか？ 200号。